

教科部門

国語学習における誤答類型の分析と その指導

— 中学1年における読解を中心として —

畑 実・鈴木洋一郎・福中康子

I. 研究目的

中学校国語科の学習において、生徒の読解力がその基礎であり、この研究が従来幾多行われて来たが、この読解活動は文字に表現された文章からその意味を読みとるといった個人的なものであるため、その個人個人の生理的なもの、心理的なものに影響され、かつ生徒の今までの生活経験やまた言語感覚によりその活動には深淺広狭各様のものであった。従ってこの各種各様の読解活動の実態を把握して生徒に適切な指導をなすことは難しいことであるが、また極めてたいせつなことは言うまでもない。そこで本研究においては読解力を構成する諸要因を検討し、比較的とらえやすい項目について調査しその分析の結果に基づき生徒の読解能力において、どこに弱点があるのか、また誤りやすい欠陥があるのかその類型を発見し、その対策と更に学習指導法のあり方を明らかにしようとするのである。

II. 研究方法

以上の研究目的を達成するために中学1年生男女約100名を対象として選んだ。これは学級の質的構成から適当であり、また次年度においても継続して行い、その実証を確めるのに便であるからである。そして本研究を遂行するたまた次のような方法がとられた。

まず既に標準化されている問題で検査し生徒の国語学力の実態をつかみ、ついで教科書の各単元の終末において、教師作成の客観テストを行い、国語学力向上の程度を知り、最後にこの二つのテストを比較考究しながら、その各要素

にあらわれる誤答類型を発見しその分析によって国語学習指導の内容と方法とについて検討を加えることにした。

III. 研究経過

1. 昭和31年度

(1) 現教材の検討と研究題目の設定

現行教科書(中学1年に対しては秀英出版の麻生磯次編著「私たちの国語」上、下使用)の教材を「読む」「書く」「話す、聞く」その他の範疇において分類し、更に「読む」「書く」「話す、聞く」の各部面をそれぞれ文学的と実用的との観点から配列し、その教材図表を学年別に作成してみた。(付表1)。そしてこの図表を検討すると、「読む」の教材が非常に多いことがわかり、また読む力即ち読解力が国語学習の基礎であり、中心を占めているが、従来その実態を把握するような綿密な研究がなされていない。

われわれ国語科教官は学部との共同研究計画に従い、その常任委員や教育学部の教科部門の教官と共同研究会をしばしばもって昭和31年度の終り即ち本年3月に上掲の研究題目を設定しその研究方法を考究した。

(2) 研究方法の決定

(3) 国語学力の範囲とその要素の検討

国語学力を構成する要素については、教材図表を検討し、また阪本一郎氏外の標準国語学力診断テストの問題分類を参考にして、次の五つの要素を考え、テストを実施することにした。

1. 読字 2. 書字 3. 解釈 4. 文法 5. 総合

2. 昭和32年度

(1) 諸標準テストの実施

4月上旬次の諸テストを実施し、入学当初の国語学力の実態を把握し指導研究の資料とした。

1. 新田中B式知能テスト
2. 名大式知能テスト
3. 阪本一郎氏標準国語学力診断テスト（略称 標準テスト）第1回目

(2) 客観テストの実施

単元に入る前に学部と本校の教官との合同討議により予め国語学力の五要素についてテストする問題（略称、客観テストの問題）を作成して（附表2）4月下旬、最初の単元の終末において、第1回目の客観テストを実施し各要素についてその誤答の類型をまとめ、分析しながらその由来する原因を考えその指導対策をたてた。

(3) その後のテスト

この客観テストと前の標準テストとを次の通り実施し、その結果を相互に比較して国語指導法を研究して来た。

標準テスト 第2回目は7月中旬、第3回目は11月中旬

客観テスト 第2回目は7月中旬、第3回目は10月上旬

(4) 研究報告

これまでの研究の成果については次の通り2回にわたり中間報告または研究発表をしている。

学部と本校との合同研究会において中間報告
10月4日

中等教育研究協議会において研究発表 11月29日

IV. 研究の結果

1. 誤答率からみた国語学力の推移（付表3）

(1) 標準テストにおける誤答率

標準テストの問題は1,2,3年共通用のものである。問題の中で「文法」については読解に比較的關係の少ない知的な問題—例えば品詞の名や活用形を答えるもの—などがあり文論や文章論などの問題が少ないなど、必ずしも読解のすべてにわたる綿密なテストの実施は期待し得ないと

しても、第1回から第3回までの誤答率は文法以外について各要素すべてにわたり逐次低下している特に読解力に最も関係のある「総合」においても13%の低下を示していることが注目される。また各要素の学力平均を「テストの手引」を参照してその全国平均と比較してみると、おおよそ2年2学期から3年3学期の範囲内に各要素がいずれも入ることがわかる。この全国平均は「手引」でもわかるように都会の学校より約1学年と成績の低い郡部のそれが加わっているので直ちに安心できない。

(2) 客観テストにおける誤答率

客観テストの問題は前に述べたように教授者自身が単元の終末に作成するのでなく、関係教官全員で予め多くの問題資料を十分に検討し相互に改補修正を加えてできたものであり、これにより教授者は前には授業の目標や中心を考える参考にしたりまた後には自己の授業の反省の資料ともなうるのである。しかしこの客観テストは同一問題を繰り返し実施する標準テストと違い、単元の進行に応じて作られ、一テスト毎に新しい問題となるために、教材単元の内容、その指導法、また出題の形式などいろいろの条件が加わり、テスト相互の關係は必ずしも明らかではない。こうして前後のテストの結果を比較することは危険ではあるが、今まで実施した3回のテストのあとをふりかえてみると全般的に誤答率は標準テストのそれよりも低下している。（付表3）。そして国語学習における読解力はかなり向上していると見ることができる。

2. 各要素の誤答類型の分析とその指導

3回にわたり実施した客観テストからは、出題者の意図に反して明確な誤答類型がでなかったり、また予想以上にはっきりした成績のあったものもあり、その類型を定めるには更に多くのテストを重ねなければならない。しかし表われた数値や日常の学習指導に際して陥りやすい誤答の心理を調査しまた類推しながら、各要素を次のように分析しその指導を行ってきた。

なおここにとりあげた客観テストの問題（付表2）はその一部であり、従って表わされた数値も全部でないことを附言する。（付表4）

A. 誤答類型 () の中は誤答を示す。

(1) 読字

音読 歩調 (ぶちよう) 強情 (きょうじょう) 背後 (せご) 行儀 (こうぎ)

原因……単語が使いなれていないことや、他の音のあることに注意しないため。

訓読 占める (さだ) 悟り (かた) 改める (みと) 険しい (おそろ) 練る (なれ)

字形 自覚 (じとう) 欠礼 (しつれい)

原因……単語の意味がわからないでその文に合う他の読みを用い、また字形の類似に不注意であるためで日常親しみの少ないことばに多い。

発音 寿命 (じみょう) 随筆 (づいひつ) 把握 (はわく) 主張 (しゅっちょう, しっちょう)

原因……日常使っている発音の影響。

以上の例からわかるように、(1)音訓の正しい用法がわからなかったり、(2)おくりがなや字形や漢字の意味から類推したり、(3)表記法が日常の会話のままであり現代かなづかいによらぬ誤答の類型が考えられる。読字の能力が「解釈」や「総合」と相関関係の最も高いことは「標準テストの手引」の中で明らかにされているところであり、漢字の意味がわからないということは誤答を多くしている大きな原因となっている。

(2) 書字

同音 要領 (用領) 目的 (目適) 問答 (問同) 制服 (製服, 正服) 返事 (反事) 会議 (会儀)

原因……同音で他の文字や似た漢字をつくり、またははっきりと意味がわからないため。

字体 寒い (寒) 名誉 (名譽) 規則 (規則) 最初 (最初) 特 (持) 珍 (診)

原因……字体の不正確な記憶や、よく見られる部首をあてたりするため。

意味 養う (飼) 摘む (採) 吸う (呼,

吹) 姿 (形) 最初 (最始) 反省 (反責)

原因……意味から類推して別な字をあてたため。

以上の例から、(1)同音異義の字や類似の漢字を書き、(2)意味上またはおくりがなから類推して異字をあてるといった誤答の類型が考えられる。漢字には同音語が多く、われわれは四声のように発音によって意味を見分けることができないので書字には抵抗を感じるのであるが、しかし誤答の多くはその語の意味を十分に理解していないためであり、特に訓読みの書字になると無答がずっと多くなっている。

(3) 解釈

反対語、類似語

1. 「長者」の反対語として女中、短所、貧者、小人の中から選ばせる。
誤答……短所
2. 「特徴」の同意語として特殊、格別、特色、特別の中から選ばせる。
誤答……特殊、特別
3. 「代筆」の意味として
イ. 別の筆に代えること。ロ. 筆のねだんのこと。
ハ. 他人に代って書くこと。ニ. 書いてもらったお礼のこと。の中から選ばせる
誤答……ロ

原因……問題の語句の意味がわからなかったり、また一部の意味にとらわれており漢語の構成に対する理解が十分でないため。

これらの誤答はことばそのものの意味によるのはもちろんであるが、(1)一部分の文字から類似性または反対性を求めたり、(2)意味をとり違えたり、(3)似通ったことばの意味の区別が不徹底であるという類型が考えられる。

(4) 文法

かなづかい 近 (ず) く 息をは (づ) ませ 追い越そ (お)

助詞 「に」の用法

原因……現代かなづかいがよくわからなかったり、付属語 (辞) としての微妙な意味や用法に対する感覚が十分でないため。

これまでのテストの中で誤答の多かったのは(1)現代かなづかいがはっきりわからなかったり(2)一語一語の語感の不足や単語と語尾(詞と辞)との混同、(3)文脈の理解が不十分であり、また文中における一語の適切な用法がつかめなかったり、(4)敬語法に慣れていない、というのが見られ、これらが**類型**として考えることができる。文法は国語学習、特に読解(総合)においては他の要素(例えば読字)に比べてやや相関関係は少ないとはいうものの、自分の考えをはっきり述べたり、正しく文に書いたりする場合、また書いてある文の構成をつかみ、更に文脈を正確に把握してゆき読解力を高めるというためにも極めてたいせつなものである。

(5) 総合

文脈 文相互の関係を理解し、その文を接続するに適切なことばを考えることが不十分である。

要旨 だいたいつかめるが、まだ読みに深みがない。

指示語、内容の鑑賞 指示語が一語を指示しているよりも、語句である場合のほうがその見分けがむずかしく、また描かれている場面や登場人物などを想定することが不十分である。

原因……主眼となる語句がわからず、一部分の理解で全体をつかんだり読みが表面的であったり、文意の発展を追求することが不十分であるため。

以上の例から誤答をまとめること、(1)文相互の関係を理解する力、(2)要旨をつかむ力、読みが浅い、(3)文中の語句(難解な語句や指示語)を理解する力、(4)内容を把握する力、などの不足に起因するという**類型**が見られるのである。

「総合」は読解力の諸要素を総合した問題であるから、文章の句読点に注意しながらよく読んで段落を発見し、文脈を正確にたどりながらさらに読みを深めてゆくという通読の繰り返しの習慣が欠けていると言いうる。

B. その指導

(1) 読字

1. 単語について……一般に耳に聞きなれていない誤彙の理解力が低下しているの

で語彙量を豊富にするように指導する。

2. つとめて朗読するように指導し、漢字の音読み、訓読みの理解を深め、朗読また話し方にあたっては生徒の訛音や、起りやすい音韻変化にも注意し、正しい発音ができるように指導する。

(2) 書字

1. 書取の練習量を多くし、ていねいに文字を見、また書いた文字を考える習慣をつける。

2. 六書などを例にして漢字のなりたちを教え、表意文字たる漢字の性質を知らせる。

3. 漢字のもつ基礎的意味の理解。すなわちその漢字の原語的意味を理解させ、また派生的な意味についても指導する。

4. 一字訓読み語の無答数が二字の音読み漢語それよりも多いので、漢字の訓読みについては十分に注意して指導する。

(3) 解釈

1. 漢語の構成について……漢語には主たる意味があとにあって、修飾的な語が先行するものであるということ。(長者の「長」と「者」)

2. 同意語の発見には「な」、「の」、「する」などを付けてその用法上から考えさせる。

3. 書字の3と関係をつけながら、漢字一つ一つの意味の外に熟語または連語の際には独特の意味のあることを知らせる。

4. 日常の生活語彙に比べて抽象的な語の理解が不十分であるので、具体的な例を挙げて帰納的にわからせたり、また辞書の使用に習熟させる。

(4) 文法

1. 現代かなづかいは誤用しやすい例題の練習で理解させる。

2. 助詞については微妙な意味がでて来たとき適時文中で指導する。

3. 生徒に相互の発表をよく聞く態度習慣をつけさせ、正しい話し方、また話すままた書くことの多い作文の指導において、その表記法や表現のしかたに注意する。

(5) 総合

V 結 論

1. 文章の句読点や段落に注意しながら通読の繰り返しをして大意を理解させて、主眼点を見つけ、また読後の発表などを通して要旨を正しく把握させる。
2. 指示語については適確な理解に到達するまでよく読む態度をつける。
3. 文の内容の理解についても、特に低学年に多い叙情的な文章の場合は登場人物の気持や態度を考えさせたり、一つのことからいろいろのことを連想をさせ自分の経験などその例を発表し合う。例えば季節の変化に対する感覚が弱いということは生徒たちの多くが都会的な環境に育ち、自然と親しむ機会が少いためとは言え、日本文学には比較的この季節描写が多いので、特にこの感覚の指導は文学の鑑賞においては注意しなければならないことである。

数回のテストのデータから結論を述べるのは早急であり、この研究が明年度においても継続してなされるので、今までの成果と今後の目標を書いて結びとしたい。

本年度はさらに2回ずつのテストを残しているが、およそ誤答の類型の分析とその指導計画との見通しがつくようになった。そしてこれらの結果に基づき学習指導しながら、読解力を中心とする国語学力の向上をはかり、さらに誤答の分析してその原因を確かめ、指導法を研究してゆきたい。

また明年度にはこれまでの研究を継続しながら、さらに綿密な検討を加えてこの実証をはかり、読解を中心とする国語学習の指導法を研究し実践する予定である。

なおこの研究を進めるにあたっては、教育学部の広岡教授、金田一助教授の両先生の指導と助言をうけたことを付記する。

付表1. 教材図表の一部 (私たちの国語 中学一年上下のみ)

単 元	教 材	読 む		書 く		話 す, 聞 く	
		文 学 的	実 用 的	文学的	実用的	文学的	実用的
きょうから中学生 朗 読	入学式の朝 (生徒作品)..... 春の鳥 (随 筆)		生きたことば (随 筆)	→入学の感想表現			
	菜の花と小娘 (小 品) 汽車に乗って (詩) 山 頂 か ら (") だ る ま (戯 曲)		朗読について (解説文) 比喩と擬人法 (ことばの学習一)				
日 記 と 手 紙	風の子 (生徒の日記) 清からのたより (小説)		日記の書き方 (解説文) はがきと手紙 小学校の先生へ、迎への打合せ、時候みまい 電報文の書き方 (参考文) 文の組立て (ことばの学習二)		→はがきと手紙 →電報文		
	読書の楽しさ	アルプスの山の娘(小説) スポーツ精神 (随 筆) 一つのさやの五粒の豆 (小 説) すずめ御殿 (随 筆)	読書のくふう (解説文) 辞書の引き方 (参考文) 参考書の使い方				
ラジオを囲んで			話しことばと書きことば 敬語 (ことばの学習三)			ラジオの聞き方 放送のことば あいさつ (放送シナリオ)	(解説文) (")

共 同 研 究

単 元	読 む		書 く		話 す, 聞 く	
	文 学 的	実 用 的	文学的	実用的	文学的	実用的
文学を味わう	ひとふさのおどろ(小説) なぎさで網を引いて いる (詩) 晩 秋 小 景 (") な だ れ (") 山 の 雪 (随筆)	「ひとふさのおどろ」につ いて (解説文)				
知識を求めて		なぞを解く喜び (随筆) みんなで考えよう (説明文) 図 書 館 (") 段落とくぎり符号 (ことばの学習四)	鑑賞文			
劇	安寿と厨子王(脚本) ふるさとの英世(")	け い こ (解説文) 「安寿と厨子王」の演出に ついて (") 「ふるさとの英世」の演出 について (") 単語の種類 (ことばの学習五)		(応用)		→(上演) (話し合 い)
私たちの雑誌	雑誌(輪)ができるまで 「輪」からの生徒の作品 (詩, 感想, 声, 研究, 創作)	原稿用紙の使い方 (参考文)	私たちの 雑誌	(雑誌の 編集)		(批評反 省話し合 い)
すぐれた人々	パスカル(随筆) 非凡なる凡人(小説)					

附表2. 客観テストの問題一部

読字 ——線の漢字の読みを次のわくの中に書きなさい。

歩調を合わせる 強情にいいはる 群集の背後 行儀に慣れる 位置を占める 悟りの境地 その非を改める 険しい峰 体力を練る 寿命がちぢまる 随筆を書く 意味を把握する 主張の態度がわるい 中学生であることの自覚 平素の欠礼に気付く

書字 ——線のかなのところを漢字になおしなさい。

ようりょうよく仕事をする もくてきを達する 軽いもんどうをかかわす せいふくの世話をする よいへんじをする かいぎをひらく さむい冬がすぎる それは国のめいよだ きそくを守る さいしょの卒業生 めずらしい人が来た 弟妹をやしなう 花をつむ 空気をすう すがたを現わす はんせいのあとが認められる

解 釈

一. 次のことばの中で——線の語の反対の意味をもつものはどれですか。

長者 女中 短所 貧者 小人

二. 「特徴」と同じ意味の熟語を次のことばの中から選びなさい。

特徴……特殊 格別 特色 特別

三. 次の「 」の語について同じ意味をもつものを選びなさい。

「代筆」……イ. 別の筆に代えること ロ. 筆のねだんのとき ハ. 他人に代って書くこと ニ. 書いてもらったお礼のこと

国語学習における誤答類型の分析とその指導

「快心の作品」……イ. 心にのこる作品 ロ. 心にかなう作品 ハ. 心にかかる作品 ニ. 残念な作品
文法

一. 次の文を読み、それぞれの間に答えなさい。

四月のの始めのある朝、私はいつものように電車から降りて春らしい日ざしを楽しみながらゆっくり学校の方へ歩いて行った。途中の公園の並木路を通り過ぎようとしていた。そのとき、ひとりの生徒が私の傍をどンドン抜いて行った。見ると入学したばかりの生徒ある。まもなく私のうしろ□□来た生徒が私をA(イ. 追か越そう ロ. 追い越そお ハ. 追越そう)として「おはようございます。」とあいさつした。それは三年生のひとりである。すると先に行った新入生が何を思ったか急に立ち止まり道の右側に直立している。そして私がB(イ. 近かづく ロ. 近づく ハ. 近づく)と脱帽して「おはようございます」と言った。

- (一) A. B () のうちそれぞれ「かなづかい」の正しい語を書け
 (二) 文中の□□には次のどの語が入るか
 に から を まで
 (三) 下線急に、右側にの「に」と同じ使い方をする「に」を次の例文から求めなさい。
 名古屋に住む 愉快に遊ぶ じょうずに読む 春になった

二. 次の文を読み、それぞれの間に答えなさい。

菜の花は、娘の鼻の頭にぼつぼつと玉のようなあせが浮かび出しているのに気がつきました。「こんどはあなたが苦しいわ。」と菜の花が心配そうに言いました。A小娘はかえって(1)おあいそうに、「心配しなくてもいいのよ。」と答えました。菜の花はしかられたと思って黙ってしまいました。まもなく小娘は菜の花の悲鳴におどろかされました。菜の花は流れに波打っているかみの毛B水草に根をからまれ(2)てさも苦しげに首を振っていました。「まあ(3)、少しそうしておやすみ。」小娘はCながら、そう言っただけでかたわらの石にこしをおろしました。

- (一) —線(1)のことばと同じ意味をもつことばを次の中から選びなさい。(解釈)
 イ. ぶかっこうに ロ. そっけなく ハ. ぶしつけに ニ. 意地わるく
 (二) —線(2)の「れ」と同じ意味に用いられているものを次の中から選びなさい。
 イ. 川には水が流れている ロ. 僕は犬にかまれた ハ. 母にしかられてかなしい ニ. 高い山に登れてうれしい
 (三) □□A. Bによくあてはまることばを次の中からそれぞれ選びなさい。(総合)
 A イ. また ロ. だから ハ. が ニ. それで
 B イ. と同じ ロ. みたいに ハ. のごとく ニ. のような
 (四) —線(3)と同じ意味をもつ「まあ」を次の例文から選びなさい。
 イ. まあ、きれいな花 ロ. まあ、これでいいわ
 ハ. まあ、どうぞお上りなさい ニ. まあ、それはどうもありがとう

総合

一. 次の文を読み、それぞれの間に答えなさい。

いのちの底からおし出てきたようなことばには不思議に人の心を明るくする力がある。ときに氷のようにかたくとぎした人の心をも一瞬にとかし和げるのはこういうことばである。しかもそれは聞く人の心を動かすだけではなくもっと直接にそれを発した人の心を開拓し、その最も深い真実な人間性を鼓舞し開発するものである。このようにいのちがそのままことばにあらわれ、ことばがただちにいのちそのものであるような域に至ってはじめてことばがただちに生きたことばになるといえよう。

- (一) 文中—線をひいた「一瞬に」ということばはどんな意味につかわれているか
 イ. まもなく ロ. ふたたび ハ. たちまち ニ. 一時的に
 (二) 文中の—線をひいた「こういう」ということは何をさしますか、次にあげた四つの中から正しいものを選びなさい。
 イ. 人の心を一瞬にとかし和げるもの ロ. 不思議に人の心を明るくする力 ハ. いのちの底からおし出して来たようなことば ニ. 氷のようにかたくとぎした人の心
 二.

共 同 研 究

つばめは人間に喜びむかえられている。それはなぜであろう。ただ愛らしいからだろうか。なかよく働きこどもをよく育てるからだろうか。虫をよく取るからだろうか。そのどれもがみなあてはまるだろう。

〔1〕それらにももしていちばん人に親しまれる原因は春になって私たちのところへやってくるということであろう。どんな所に住む人でもつばめの来るのを喜ぶのであるが、〔2〕雪にうもれた冬の長い国に住む人人にとってつばめの訪れはことばにあらわし難い喜びである。

(一) 文中の□の中にはどんなことばが入るか、次の四つの中から選びなさい。

〔1〕 イ. そこで ロ. もしも ハ. しかし ニ. あるいは

〔2〕 イ. もしも ロ. とにかく ハ. また ニ. とりわけ

(二) この文は何について書いてあるのが、次の四つの中から最も正しいものを選びなさい。

イ. つばめがよく働きこどもを育てること ロ. つばめがひとびとに喜びむかえられるわけ ハ. つばめが冬の国を訪れるわけ ニ. つばめの姿も美しく愛らしいこと

三. 次の文を読んで、下の間に答えなさい。

夜明け前に雨が降ったらしいあとがさらさらした山はだにいくすじもほうきの目のように雨水の流れ道をつけていました。山の木立がつやつやとして緑色の露をばらばらとふりまいていました。両手を広げて思いきり深呼吸をしていましたら実がぼたんと落ちてきました。「あれ、あれ」と言いながら即興詩人が駆け出して来ました。貞子が負けずに続いて来ます。実の一つです。そらまたけんかだと思っていたら二人で声をそろえて「おばちゃん」って呼んでいます。ちょうど顔をあらったばかりのようなおばさんが小川の方からうらの石だんを登って来ました。「おじいさん、おこるだろうね。おばさん、もう梅こぼれそうなんだけどなあ」って言いますと、おばさんは片目をつぶってばちばちさせながら木の方へ駆け出して行きました。

(一) 右の文中の人物は話題になっているものと行動しているものとに分けられますが行動しているものは何人ですか

イ. 三人 ロ. 四人 ハ. 四人 ニ. 六人

(二) 貞子たちはどこにおりますか、次の四つの中から最も正しいところを選びなさい。

イ. 山の木立の中 ロ. 小川のほとり ハ. やや低いところ ニ. やや小高いところ

(三) —線のところはどんな意味につかわれているか、次の中から選びなさい。

イ. つやつやしているさま ロ. さらさらしているさま ハ. すじ道のついているさま ニ. きれいさっぱりしているさま

(四) この文はいつごろの季節を書いたものか、次の中から最も正しいと思う答を書きなさい。

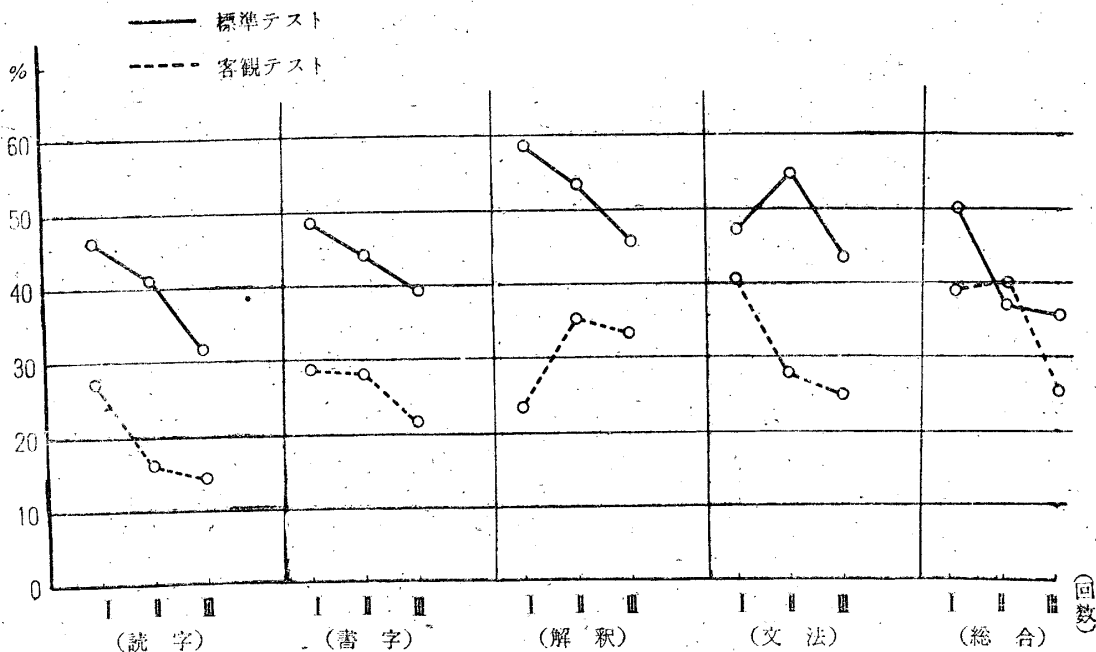
イ. 晩春から初夏にかけて ロ. 夏あつくなる前 ハ. 夏休みに入ってから ニ. 秋、木の実の熟する頃

付表3. 標準テスト、客観テストの誤答率

		回	I	II	III
		テスト			
読	字	標準テスト	46.8	40.8	31.0
		客観テスト	27.0	16.8	14.3
書	字	標準テスト	48.1	43.2	39.6
		客観テスト	28.5	28.3	20.7
解	釈	標準テスト	59.2	53.4	45.7
		客観テスト	22.6	36.0	33.8
文	法	標準テスト	47.8	54.6	43.1
		客観テスト	40.1	28.5	24.5
総	合	標準テスト	50.1	38.1	37.0
		客観テスト	39.7	40.3	25.6

国語学習における誤答類型の分析とその指導

		回	I	II	III
		テスト			
平均	標準テスト		47.5	30.1	29.9
	客観テスト		30.2	29.6	23.8



付表4. 客観テストにあらわれた誤答の頻数とその類型

問 題	誤 答 数			○の中は 正 答	類 型		
	一・三	二・四	五				
読 字	歩 調, 強 情,	ぶ ち ょ う (6)	き ょ う じ ょ う (6)	き ょ う じ ょ う (8)	(1)		
	背 後, 行 儀,	せ ご (12)	こ う ぎ (2)	き ょ う せ い (4)	(1)		
	占, 悟, 陰,	さ だ (4)	か た (4)	お そ ろ (3)	(2)		
	寿 命, 随 筆,	じ み ょ う (4)	ず い し つ (3)	つ い ひ つ (4)	(3)		
	把 握, 主 張,	は わ く (2)	し ゅ っ ち ょ う (16)	し っ ち ょ う (4)	(3)		
	自 覚, 欠 礼,	じ と う	し つ れ い (4)		(2)		
書 字	ようりょう, もくてき, もんどう,	用 領 (2)	目 適 (5)	問 同 (3)	(1)		
	せいふく, へんじ, かいぎ,	正 服 (9)	反 事 (9)	会 儀 (9)			
	さむい, めいよ, きそく,	製 服 (14)	名 誉 (14)	規 則 (16)	(2)		
	さいしょ, やしなう, すう,	寮 初 始 (10)	飼 育 (5)	呼 (3)			
	すがた, はんせい,	最 形 (3)	反 責				
解 釈	一. 長 者, 二. 特 徴,	イ	ロ	ハ	ニ	(1)	
	一. 二	1	7	⑨	1		(2)
	三. 代 筆, 四. 快 心 の 作 品,	3	7	⑨	6		
	三. 四	43	④	11	2		

共 同 研 究

問 題		文 法										総 合																					
		一、 (一) A B		(二) 6		(三) 20 急に 右側に		二、 (一) 7		(二) 15		(三) 3		A B		0 9		一、 (一) 1		二、 (一) 34		三、 (一) 4		(二) 6		(一) 4		(二) 53		(三) 40		(四) 3	
選択肢誤答数	イ	④	10	6	20	⑤	7	15	3	0	9	1	34	4	6	4	53	40	3	53	2	7	5	4	⑤	④	9	11	②				
	ロ	3	②	94	④	20	⑤	⑥	5	5	⑥	2	7	5	4	⑤	④	9	11	②	78	④	⑧	30	3	3	2	⑦	11				
	ハ	3	38	0	②	26	19	②	⑧	5	⑧	19	13	5	⑥	8	1	④	12	14	19	13	5	⑥	8	1	④	12	14				
	ニ			0	44	⑦	23	24	13	⑧	36	19	13	5	⑥	8	1	④	12	14	19	13	5	⑥	8	1	④	12	14				
類 型		(1)		(2)		解釈		(2)		総合	(1)	(1)	(3)	(3)	(3)	(1)	(1)	(2)	(4)	(4)	(4)	(3)	(4)	(3)	(4)	(3)	(4)						

※問題のらんの数字(一, 二, 三...)は付表2のものである。